

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成29年10月31日

中学生の活躍から

東陽中学校長 小野寺憲治

昨年末から今年にかけてこれ程までに中学生や高校生の目覚ましい活躍があったのだろうか。顕著な中学生二人について考えてみたい。記憶に新しい昨年末、13歳の張本智和選手（JOC エリートアカデミー）は18歳以下の選手で争われる卓球世界ジュニア選手権大会において最年少優勝を遂げたニュースから始まり、今年4月、ワールドツアー、チェコ・オープン決勝では14歳の少年（張本智和選手）が元世界ランキング1位の強豪、T・ボル選手を退け勝利し、ワールドツアーで史上最年少優勝という歴史的快挙を達成した。続いて6月の世界選手権個人戦男子シングルスで最年少で8強入りし、百年に1人の逸材とまで言われている。

また、日本の将棋界に彗星のごとく現れた中学3年生棋士藤井聡太四段は、これまでの将棋界で成し遂げたことがない29連勝という快挙を樹立した。連勝街道をひた走る一戦一戦の報道が加熱し、将棋界のプリンスが誕生した。関連グッズを販売すると即完売してしまうという熱狂振りもさることながら、勝利者インタビューに答える様子にも中学生らしからぬ落ち着きや立ち居振る舞い、さらには言葉一つ一つに含蓄さえ感じられたのは私だけではないと思っている。

この二人の活躍は、幼い頃からの興味や関心と本人の資質・能力を伸ばすために支援し続けた保護者、指導者の支えがあったことは言うに及ばない。卓球や将棋に向かう環境、打ち込む個々の精神力と努力にはなみなみならぬものがあることも忘れてはならない。2人の特徴は人の話をよく聞き、聞いたことを理解し、落とし込むことができる。常に学ぶ姿勢があり、並外れた吸収力があるとも言われる。

一般的に、今を生きる子ども達には「夢がない、目標がない、自信がない」と結論づけられているが、本当にそうなのだろうか。小学校の卒業文集や卒業式での中学校入学に向けた抱負を力強く表現する児童は皆輝き、将来や未来に希望や夢を抱いていたはずである。もしかすると、子ども達の生活環境に夢や希望をかき消してしまう要因があるのか…。今の子ども達は、過去の指導のように叱って伸びる要素をもっているとは思えない。ましてや飛躍的にIT産業が進歩を遂げ、スマホ、ケイタイをバスや電車、自転車に乗りながら、歩きながら操作する姿には、前述の二人のような活躍は、奇跡に近いことなのかも知れない。でも学校の中にあっては生徒個々の無限の可能性を信じたい。無形ではあるが友情や協力、達成感など、いろいろな事に挑戦できる環境づくりと集団づくりが求められている。未来を逞しく生き抜く子ども達のために学校・家庭・地域が今まで以上に連携・協力し、夢や希望がもてる、そして語り合える環境を整備することが課題である。また、そのために全ての生活において、子ども自身が楽しめることを見つけて、それを応援する。子どもは好きなことに夢中になっているときに成長し、自己肯定感や自己実現力が身に付くと言われる。今世間を賑わし、大活躍を遂げている2人の中学生のように、自己の可能性を開花させる多くの生徒が後に続くことを期待したい。